

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

令和元年11月 第225号 年間購読料1,000円 (1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

『死後にも続く関係性』を紡ぎ出す介護現場に

人は、「社会」を構成して多くの人々と様々多様な「社会関係」を結んで暮らし、老いて死に逝く身を仲間に委ねます。そして人が創る『社会』には、個体の死を超えた『継続性』があります。人と人との関係性は、「自らの死後」にも仲間の「心の中」で繋がり続けて、世代を超えて未永く何らかの影響を与えて来ました。人は、他者と社会関係を結ぶ中で「人間性や社会性」を養い、「思想や宗教」・「科学や芸術」を創り出して次世代に引継ぎ、何世代にも渡る過程で変化を繰り返しながら「文化・文明」を生み出してきたのです。

柔軟に変化し発展してきた『人と社会の礎』は、生前に結ぶ社会関係の中で築き育むと同時に、『死後にも続く関係性』の中でも育んできたのです。社会を構成して生きる人間は、死後にもその『社会性』を保持し得るのであり、人と社会にとって『死は豊かな創造性を持つ営み』なのです。

「人生50年」の時代には70才は「古来稀」と言われ、極少数の長寿者を除けば大半の人が若くして亡くなり、世は無常、人生は「はかないもの」とされました。人はその無常の世において、はかない人生を繰り返しながら、思想や文化を引き継ぎ、発展させてきました。そして第二次世界大戦敗戦後の復興から、高度経済成長を果たして70年が経ち、平均寿命が90才近くとなった今、既に50年～60年を生きて来た壮年層にとっては、平均寿命を超えて100才を視野に入れて生きる時代に成ったのです。そして現在、何才からを高齢期とするか？が大きな課題となっています。高齢化と同時に進行してきた急激な少子化によって「生産年齢人口」が急激に減少し、退職年齢を60才から65才・70才・75才と遅らせています。年金・医療・介護に掛かる社会保障給付費が膨らみ過ぎ、「制度を持続」させる為には元気ならば80才を過ぎても働いて掛け金を支払い、更なる消費税も負担せざるを得ない時代になって来ました。

その一方で、生まれる子供の数は毎年減り続けて「社会の持続」そのものが危うくなっています。『社会を持続』させる為の抜本的な対策こそが「喫緊」の課題であり、令和の世に生まれる子供達が、100年の未来を生き抜く柔軟な生命力を養い、子を産み育てる旺盛な生活力を蓄える為の対策が重要です。

(次ページに続く)



(前ページの続き)

2000年に始まった介護保険制度の主眼は、団塊世代の高齢化に備える事でした。2015年は団塊世代の全員が前期高齢者になる年、2025年は後期高齢者になる年です。そして2050年には団塊世代の大半は亡くなり、団塊ジュニアが後期高齢者になります。その頃までに『少子化に歯止め』を掛けなければ、本当に日本社会の存続が危くなります。そして介護保険開始から20年を経た現在、100才を目指して元気に暮らす高齢者は増えていますが、生れる子供の数は尚も減り続けて、高齢化への備えとしては不十分です。

高齢者介護の現場に身を置いていると、『予防重視型システム』の不自然さに戸惑います『老いも要介護も死も予防し避けたい』との願いに添って介護する裏側で、『予防し切る方法も無く、予防し切った人も居ない現実』に直面し、願望と現実の落差に戸惑い、『現実を受容れる』重要性を強く感じます。

医療や介護の制度が整った現在、介護施設では全てのご利用者が人生の『最終章 完結編』を過ごされ、死亡率100%です。入所後1年～3年～5年と相当に長い年月を共に過ごす中で徐々に老いが深まり、誰の目にも『最期の準備』に入った事が解る時が来ます。そしてご利用者とご家族と介護職はお互いに『最期の近い事』を予感しながらも、『生きている今を豊かに暮らしたい』と願って『時と場』を共有します。人生の完結期を『他者に委ねる』のは『人間の本能的習性』であり、永い年月をしなやかに生き抜いた生命力の『エキス』を後輩に伝える姿に思えます。老いて「知性も理性も体力」も失う中で、老いの身に沁みついた『経験則』と、本能として身に付いた『感性・感覚』を駆使してエキスを伝え、『死後にも続く関係性』を築いてバトンタッチを完了します。しかしこの数十年間の少子化状況を観ていると、此の『エキス』がうまく伝わっていない様に思えます。介護保険開始後も依然として少子化が進み、『長寿者の死』が創造性を発揮できずに社会の継続性が途絶え兼ねません。

『死』を五感で感じる時、『命の大切さ』がリアルに伝わるが故に、『死に創造性』が宿り、エキスが伝わるのです。10年程もある「要介護期間」は、猿と人との違いを顕す為に『神と自然』が用意した貴重な時間だと思えます。

団塊世代の全員が70才を超える今年以降の30年間は、歴史上かつて経験した事の無い『超多死社会』であり、もしもこの30年間に『人の死』が創造性を取戻せば、『大変革』が生まれる可能性を秘めています。戦後の社会変革を担った『団塊の世代』が行う『最後の社会変革』に期待が掛かります。

お互いに「死を予感」しながら行う『今を豊かに過ごす工夫』が、死後にも続く関係性を築き、死者は生者の心の中で命を永らえ、生者は何気ない日常の出来事で死者を想い偲んで吾身を振り返り、『思想と社会性』を養います。長年を共に暮らしたご家族やご友人にとって『介護現場』が、死後にも続く『ご自分達との関係性』を紡ぎ出せる場であって欲しいと願い、職員を介さずに過ごせる場として、各部所ともに個室を確保し、リバティ1階には喫茶室ラヴィックを、2階には談話空間を創り、敷地内に地域とつながる散歩道を用意しています。

周辺の自然環境や社会環境も活かし、散歩で歩く道端の草花や、池に浮かぶ水鳥に寄せる心が互いの感性や感覚を磨き、五感に訴える景色や雰囲気大切な思い出を彩ります。喫茶室でコーヒーや甘酒を飲みながら、多くは語らずとも傍らで過ごす時間が織り成す糸で、永く心をつないで欲しい、と切に願います。

せいりょう園 渋谷 哲



私がせいりょう園に入社したのは、去年の11月です。栄養士資格を持った私は介護について勉強したことがなく、お年寄りとの関わり方もわかりませんでした。世間的なイメージでの「認知症」しか分からず、初めは不安でいっぱいでした。私の中での認知症とは、窓や玄関は施錠していて一人で外を歩かせない、何も覚えていない、関わるのが難しい等マイナスのイメージが多かったです。元気な認知症の人なんて少ないと思っていました。元気な方でも、危ないから何もさせない、してはいけないと思っていました。

しかし、せいりょう園は常に鍵は開いていて、自由に出入りできる環境です。それに利用者さんは洗濯物を畳んでくれたり、洗い物を手伝ってくれたり…。私のイメージとは違っても元気でお手伝いをしてくれる利用者さんがたくさんいました。

私が入社してすぐ「あれは駄目、これは駄目は言わないように」と言われました。その頃は外に出て事故にでもあったらどうするんだろう、迷子になって帰って来られなかったら、台所に来て怪我でもしたら…と思う部分もありました。けれど、利用者さんが外に出たら外出するのは個人の自由だから後ろから少し離れて追いかければいい。洗い物は「包丁があるので気を付けてください」と声をかけると「そんなアホちゃうからわかるわ」と言われたり…。私がおにぎりを握っていたら「一人やと大変でしょ」と手伝ってくれたこともあります。入社したころの私だと、「危ないからやめてください」と止めていたと思います。最近は、自分の余裕がある時だけでもなるべく利用者さんと関わり、共に洗い物や簡単な調理をしたいと思っています。

まだまだ世間的に見れば認知症はマイナスなイメージが強いように思います。しかし利用者さんと関わっている内に、認知症もその方の個性なのかなと思うようになりました。今では仕事に対する不安も減り、毎日とても楽しく充実しています。利用者さんの笑顔の一つでも多く作れるように、私にできることは何かを考えて、介護士のみなさんとの連携を忘れずに笑顔でこれからも働きたいです。

日常の気づき



認知症があってもなくても、誰であっても自身で選択するという事は大事なことだと思います。しかし介護現場ではよかれという思いや、危険を回避しようとする思いで職員が勝手に判断してしまうことが多くあります。

Eさんは月に一度主治医の往診があるのですが、その時間は映画会に参加しており毎回途中で戻ってきてもらっています。そして毎回Eさんは「どこも悪くないのに」と不機嫌になりながら戻ってきてくれます。ある時、先輩職員は新人職員に機嫌が悪くなる旨を伝えたそうで、新人職員は「今日は病院の先生が来るからここにおってね」と本人に伝え参加してもらわなかったそうです。映画会に参加していないEさんを見た先輩職員は「機嫌は悪くなるかもしれないけど選ぶのはご本人で、往診があることを伝え、その上で参加するかどうかを選んでもらって下さい。お年寄りが中心ですよ」と新人職員に伝えたそうです。そして上司の私には「人に伝えるのは難しいです」と以上の報告がありました。

しばらくしてからその新人職員が「今日は雨が降っていますけどのびのびルームに参加しますか?」「傘をさしたら行けますよ」と声をかけている姿をみかました。とても簡単なことのように思うかもしれませんが、理解できるには時間がかかります。いい職員が育っているな、先輩職員の思いが伝わったのかなと嬉しくなりました。

(グループホーム主任 別府 克彦)

介護について語ろう会

「認知症」【令和元年 8 月 23 日】

ユニット型特養 水井 竹織
(介護福祉士)

今回の介護について語ろう会のテーマは「認知症」でした。

まず最初に「認知症についてどんなイメージを持っていますか？」と聞かせていただきました。私は「ネガティブなイメージが多いのではないかと勝手に予想していましたが、そのようなことはなく、良いイメージを持っている方も多く驚きました。

「認知症もその人の個性」「認知症があっても地域でその人らしく生活をされている」「認知症があっても、家族も本人も受け入れて笑いながら生活している」など、良いお話をたくさん聞くことができました。

その反面、あまり良くないイメージもあり「何も分からなくなり徘徊する」「ずっと同じ話をする」「自分が認識されておらずショックを受けた」とのお話がありました。しかし、参加されている皆さんのお話を聞いていると、認知症があるからと言って特別扱いをするのではなく、同じ目線で接し、対等に関わっていると思えました。私の中では、良いイメージの方がとても印象に残り、参加された方が本心で話されていたのが伝わってきました。

その後、せいりょう園に入所されている方に「せいりょう園での生活」についてお話を伺いました。その方からは「せいりょう園にも色々な決まりごとはあるが、入所ができて安心して居る。催し物や行事に参加させてもらい毎日楽しく生活している」と貴重なお話を聞かせて頂きました。その場にいた私はとても嬉しく思いましたし、せいりょう園で働いていることがとても誇らしく思えました。

良いイメージの話や、利用者の方から話して頂いたことを参加できなかった職員に話をするとう「私たちがやってきたことや話をしてきたことが徐々に伝わりだしてきている」と言われ、今回語ろう会でお話をさせてもらえて本当に良かったと思えました。

人が生活をしている中で様々な病気があり、治る病気もあれば認知症のように治らない病気もあります。誰もが一人では生きていけず、何かしら関わりを持ち、助け合いながら生活しています。認知症の方や、その他の病気を患っている方でも安心して生活ができるような地域になってきている。私たちの未来も明るいのではないかと、思えるような語ろう会でした。



11月7日、良野老人会の12名の方がお越しになり「銭太鼓」を披露して下さいました。

銭太鼓は、「銭の鳴る音」を利用したリズム楽器で、幸せをもたらすという言い伝えがあるそうです。今回の銭太鼓では「サザエさん」や「ズンドコ節」の曲に合わせて銭のすれる音を楽しみました。また、銭太鼓だけでは

なく、カラオケセットを使用し「おゆき」や「河内おとこ節」を歌って下さいました。利用者の方々も手拍子をされ、満面の笑みで、普段目にする事のない銭太鼓や聴きなれた曲を歌い、とても喜ばれていました。

最後には折り紙で作ったプレゼントまでいただき、「うれしい！」「楽しかった～！」
「これって銭太鼓って言うの？」「銭太鼓って初めて見たわ～！」と利用者の方々の楽しそうで生き生きとした表情で溢れていました。

(デイサービス副主任 ベハラノ 恵)

「施設におけるターミナルケア」【令和元年9月27日】

ユニット型特養 伊藤 勇介
(介護福祉士)

9月の介護について語ろう会は「施設におけるターミナルケア」をテーマに行いました。「語ろう会」という通りに、参加者の方々にいろいろな質問を投げかけてみて、参加者の方と職員で「人が亡くなるということ」について語り合える場にできたらいいなと思っていました。

テーマが「ターミナルケア」ということで、最初に「人が亡くなるということは誰にも平等に起こることであり、それを避けることはできない」という話をし、それから参加者の方々に「自分が亡くなるということを意識したことがありますか」と質問をしてみました。「まだそこまで深く考えたことがない」「自分の年も年で、本当に最近まで会っていた元気な人が急に亡くなった。そういうことがあると、そろそろ自分もかなと考えた」という意見が挙がりました。

その次に「自分はどのようにして亡くなりたいか」という質問をしました。ほとんどの方が「答えるのが難しい」「考えたこともない」と仰っていました。当然の答えだと思います。生きていれば死は避けられないものですが、いざ自分が死ぬとなれば実感などはないものだと思います。「子どもや配偶者に迷惑をかけることなく亡くなりたい」という意見もありましたが、迷惑とはなんのでしょうか？経済的なこと、肉体的・精神的なことなど様々なことが考えられます。同じ質問を、参加されていたケアハウスの入居者の方にするすると「私と主人はここが人生の終の棲家だと考えて利用を開始しました。そのために持っていた家も処分しました。子どもたちもそばを離れてそれぞれの人生を歩んでいる。私たちも最期に向けて迷惑を掛けないようにと準備をして自由にしたいと思って……。今はすごく気持ちも楽に過ごせて、背中に羽が生えたような感じで次はどういう風に飛んでみようかって思うんです」と話されていました。

施設でのターミナルケアということで、私が印象に残っているターミナルケアのお話をさせていただきました。「家族と職員の関係性の大切さ」を中心に事例を挙げて、家族が介護に関わるということは決して迷惑なことではないということ、その人らしく最期を迎えるために、家族の力というものはすごく大切なものだということを知ってもらおうと思いお話をさせていただきました。

語ろう会の最後に参加者の方から「姉がもう余命が幾ばくかで、行けるときはずっと面会に行っているが、姉の姿を見るのが辛い。どうしたらいいでしょうか」と質問がありました。他の参加者の方から「私もこれまで身内の3人を看取ってきました。それぞれで亡くなり方や場所は違っていました。振り返ってみればいろんな経験をさせてもらったなと思います」と話されていました。私たちは「行ってあげるだけでも良いと思います。そこで手を握ってあげたり、身体を擦ってあげたりしてください。どんな職員よりもご本人は安心します。身体に触れて、声をかけてあげてください。それだけでも十分です」とお伝えしました。自分が亡くなるということだけではなく、最期を支える立場からのお話ができ良かったと思います。はじめに「考えていない」「難しい」「迷惑をかけたくない」という意見もありましたが、今回の語ろう会が皆さんにとって「自分の最期を考える」ひとつのきっかけになれば良いなと思います。





天台宗 鶴林寺 宝生院 幹 栄盛 長老

本日の仏教講話は、『鶴林寺』の長老 幹 栄盛様です。住職を息子様に譲られて、指導的なお立場でいらっしゃいます。この度はご無理をお願いして、お越し頂きまして申し訳なく思います。早速お話に入られました。

「私の干支は丑です。74、75歳までは元気でおりました。それ以後は病気がちで、この3年間で7回入院しました。この1週間前に退院してきたばかりです。大きな病気は、心臓の手術です。心臓の弁の取り換えをしました。心臓は母親のお腹にいる間から動いています。生まれてからもずっと動いています。1分間に70回～80回、1時間に4000回、1日に10万回、1年間で3600万回、80歳過ぎますと30億回・動いています。時々不整脈が出ます。たまには休んでもいいかなと気にしませんでした。ずっと休んでたらいけないということで、入院して手術しました。人間には足の先から頭の先まで色んな器械があります。時々休んでもらわないといけません。テレビ等ですと、いくら高い物を買っても10年かそこらで、新しいのに換えますね。人の身体はすごいですね。皆さん、何十年と生きておられます。上等の器械を使わしてもらって生きております。時々休んだり、故障したりしますが、ありがたい事です。

日本人の生き方は『道』を求めて生きています。この間もラグビーをテレビで見て、日本中が大騒ぎをしておりました。日本は世界でベスト8になりました。日本は自分の国だけでなく、他の国も自分の国のように応援したことで、日本は立派な国だと外国の人や選手が褒めてくれました。日本では『剣道』『柔道』『華道』『茶道』等を楽しみながら、人間の生きる『道』を探したりする。そういう国なんです。その『道』を窮めると、あの人は『徳』のある人だと、皆が尊敬してくれます。どういう風にして、その『道』を窮めたら良いか、『道』を求める為にはどうすれば良いか考えて生きていくことが大切です。それは7つあります。

① やさしい目をして生きていく。

目を見たら、その人がどう思っているか、分かります。出来るだけやさしい目をして生きていく。

② 笑顔で生きていく。

③ こんにちはと声をかける。

お互いに朝起きたら、人と出会ったら声をかけることです。

心臓の手術をした病院の看護師さんが、朝病室へ来てくれて、出る時にも『ありがとう』と言って出ていきます。どの看護師さんも、笑顔で『ありがとう』と言って帰っていきます。行き届いた病院ですね。こちら『ありがとう』と言う。言葉です。

④ 許す心

やさしい心で相手を許す。

日本と一番近い韓国が、歪み合って、相手を許そうという気がない。相手を許そうという心が大事です。

⑤ 身体でボランティア

今年は日本中に災害が起きました。九州、広島、長野、東京、千葉、東北地方、北

海道等。まだ復旧していません。被害を見ていると、20年程前の神戸の大震災を思い出します。鶴林寺に救援センターを設置しました。あちこちからたくさん物資が届きました。日本中に呼び掛けたら、若いお坊さんがボランティアでやって来てくれました。毎朝、たくさん届いた物資等を少しずつ持っていったりしました。神戸が例になって、災害が起こったらボランティアに行くという事が定着しました。これは身体でしているのです。身体が元気なうちは、身体で人様に、出来る範囲でしてあげることです。

⑥どうぞ。席を譲るという意味です。

人間は見えない席に座っているのです。昔は若い嫁と一緒に住んでいました。その家のお婆ちゃんが早いうちに若い嫁に席を譲る。見えない席ですね。会社にも席がある。村の役にも席がある。若い人に席を譲っていくことです。

⑦いっぱいのお茶

お参りに行きますと何か出して下さいます。人が来られたら、それぞれの家で、心を込めて一杯のお茶を差し上げます。これだけで来られた人は嬉しくなります。

以上の7つを『無財の七施』と言います。お金が無くても出来る施しです。7つの事が出来る人は『徳』がある人と言ってくれます。日本人は昔からこういう生きる『道』(徳)を探したのです。周りの皆さんに喜ばれる施しを7つして下さい。それが人の『徳』になります。」と話されて、ご講話が終わりました。常にやさしく、笑顔で語りかけて下さり、ありがとうございました。まだまだお話が聴きたいと思いました。退院されたばかりというのに、お疲れも見せずにお越し頂いて本当に感謝しております。

サービス付き高齢者向け住宅相談員：岡村 照代
(介護支援専門員)



9月にグループホームで、たこ焼きパーティーをしました。きっかけはお好み焼きを入居者の方と作った時に、ご家族より「次は一緒にたこ焼きをやりましょう」と声をかけて頂いたことです。

当初、「たこは噛むのが難しく食べられないのではないのか」という意見があり、栄養士からも「たこの代わりにちくわを入れます」と話がありました。しかし、せっかくのたこ焼きにたこを入れないのはどうなのだろう、どうにか食べられる方法があるのではないのかと意見を集めました。前日から準備をして柔らかくする方法、筋を切って提供してはどうか、一度ミキサーにかけてから再度固めてはどうか等と様々な意見が集まりました。

考えた結果、まず当日に職員が試食をし、そのままでも食べられるという判断で、大きさを変えるだけで提供しました。たこを吐き出されている方もいましたが、ほとんどの方がおいしく食べることができました。「まあ珍しい」「こんなんようするやろか」「ばばあやから出来ひんで」と話しながらたこ焼きを作ってくれました。

何事もできない理由をつくって避けるのではなく、できる方法をみんなで考えていきたいと思えます。

(グループホーム主任 別府 克彦)





【村津瑠紀 年の瀬コンサート 2019】

♪ クライスラー：ベートーヴェンの主題によるロンディーノ
バルトーク：ルーマニア民族舞曲 他 ♪

ヴァイオリン：村津 瑠紀 * ピアノ：松盛 由佳

日 時：12月28日（土）午後2：00開演

場 所：リバティかこがわ2Fホール（加古川市野口町長砂95-2）

入場料：会員 1,000円（村津瑠紀後援会の会員の方）

非会員 2,000円（入会金 3,000円で、当日会員登録できます）

高校生 1,000円 中学生以下 無料

問合せ先：せいりょう園 TEL (079) 421-7156



～今年も加古川市出身のヴァイオリニスト村津瑠紀さんのコンサートが開催されます。地元の子供達にも楽しんで貰いたいとの思いで中学生以下は無料となっていますので、是非この機会にヴァイオリンの音色をお楽しみ下さい。～

【冬休みせいりょう園キッズクラブ】

日 時：12/24（火）・25（水）・26（木）・27（金）1/6（月）の8時～17時

利用料金：1日 1,000円（半日利用の場合は500円）

※今年度初回の方のみ保険料（800円）がかかります。

場 所：リバティかこがわ2F（加古川市野口町長砂95-2）

利用方法：予約制（定員20名）

※別途申込書があります

申 込 先：せいりょう園 TEL (079) 421-7156



【お知らせ】

① 介護について語ろう会 毎月第4金曜日 14：00～15：00 参加費無料

・12/20 「家族・地域・ボランティアの役割」

② 男性の料理教室 毎週金曜日 13：30～15：00 1回500円

・12/6 牛すじハヤシライス

・12/13 鶏むね肉カツ

・12/20 海老のピカタ ※12/27は休みです

[問合せ先] せいりょう園 TEL(079)421-7156



【せいりょう園空き情報11月15日現在】

・サービス付き高齢者向け住宅リバティかこがわ：5室

・サービス付き高齢者向け住宅自愛の家さくら：3室

・グループホーム：空きなし ・グループホームまどか：空きなし

・ケアハウス：空きなし ・グループハウス岸本邸（シェアハウス）：2室

[問合せ先] せいりょう園 TEL(079)421-7156/(079)424-3433

